

三十組香

全

770
シ
14

0

150 cm

100

SEKISUI JUSHI

200

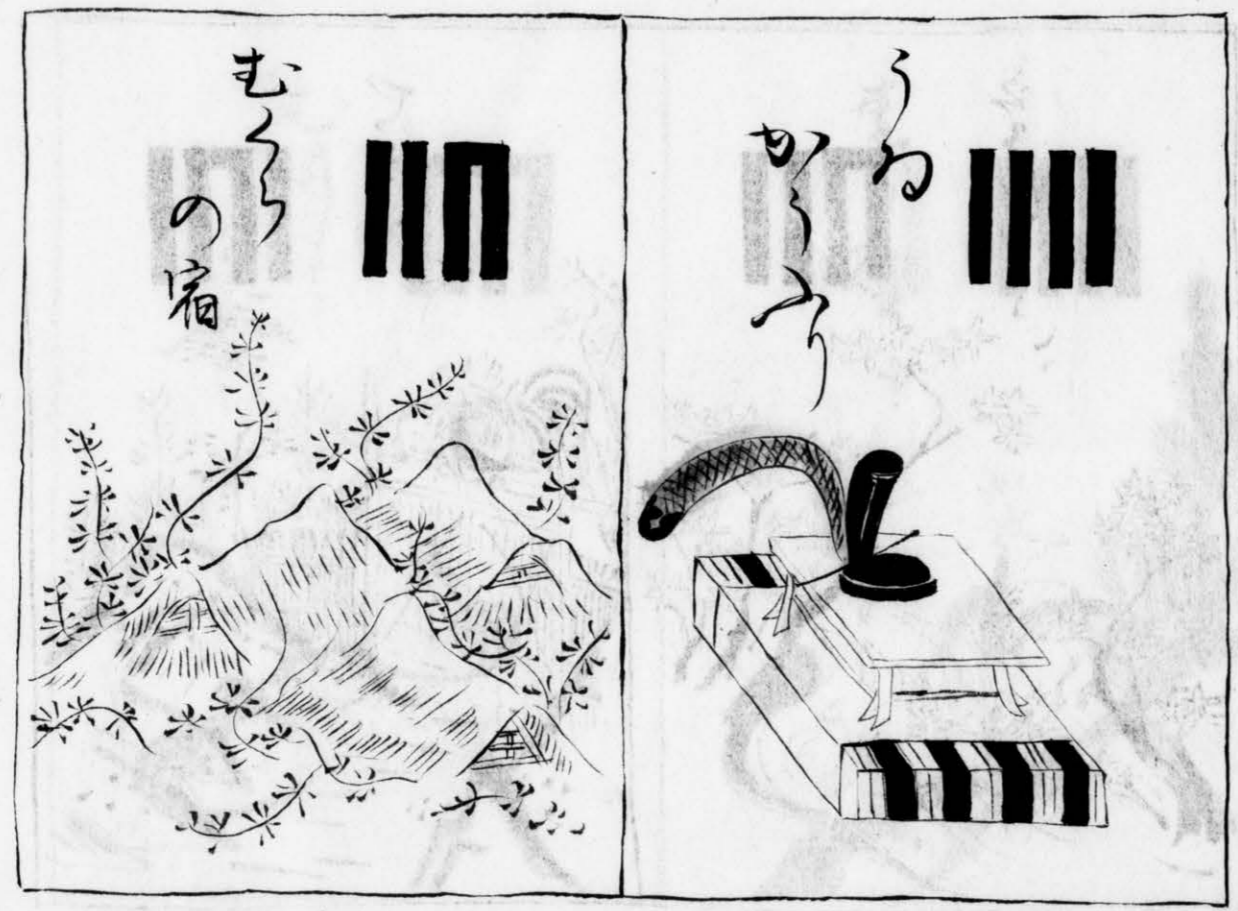
二十組香圖

- | | | | |
|----|-----|----|-----|
| 一 | 系圖香 | 廿 | 四季香 |
| 二 | 古今香 | 廿一 | 雲月香 |
| 三 | 煙競香 | 廿二 | 三景香 |
| 四 | 忍香 | 廿三 | 寐覺香 |
| 五 | 伍若香 | 廿四 | 時及香 |
| 六 | 新月香 | 廿五 | 星秋香 |
| 七 | 三友香 | 廿六 | 千鳥香 |
| 八 | 星各香 | | |
| 九 | 三夕香 | | |
| 十 | 三三香 | | |
| 十一 | 三三香 | | |
| 十二 | 草木香 | | |

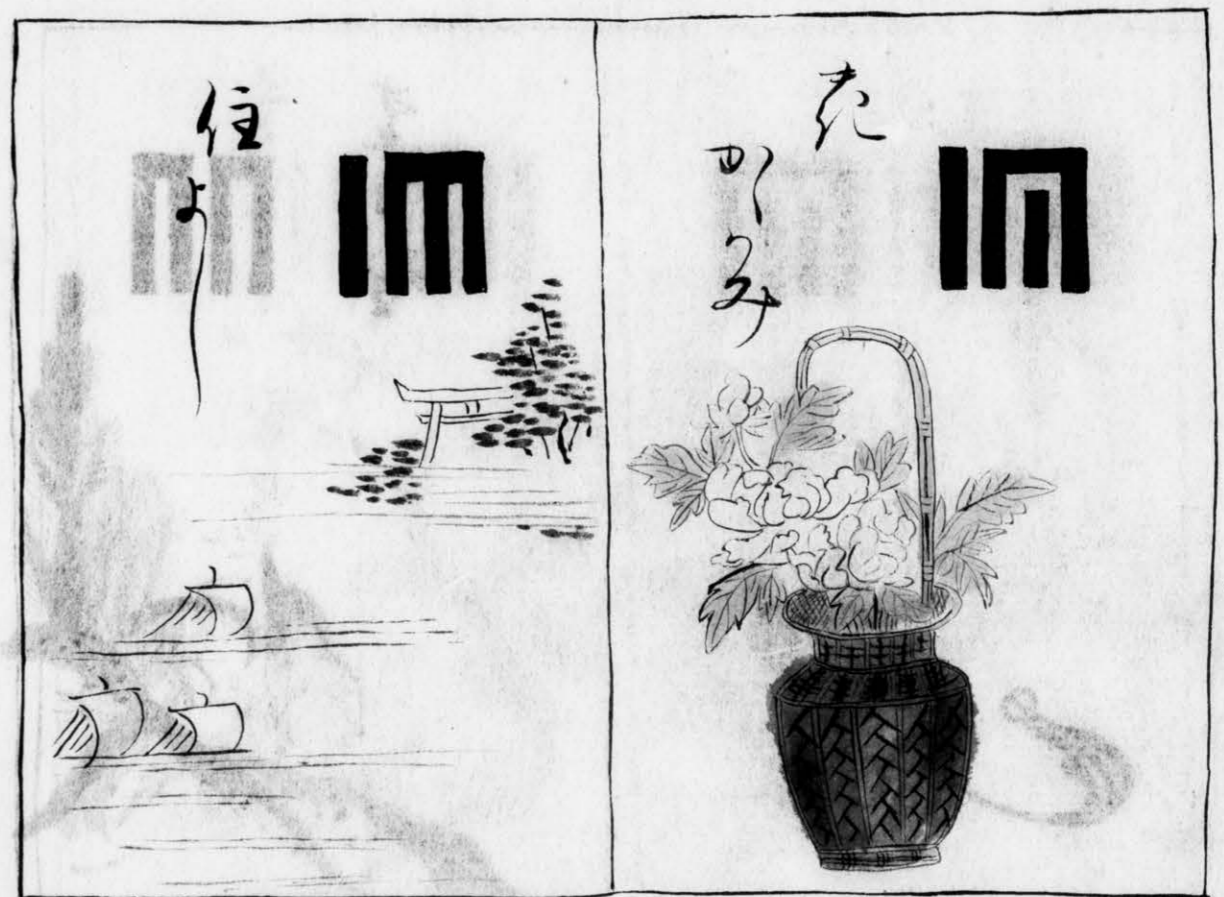


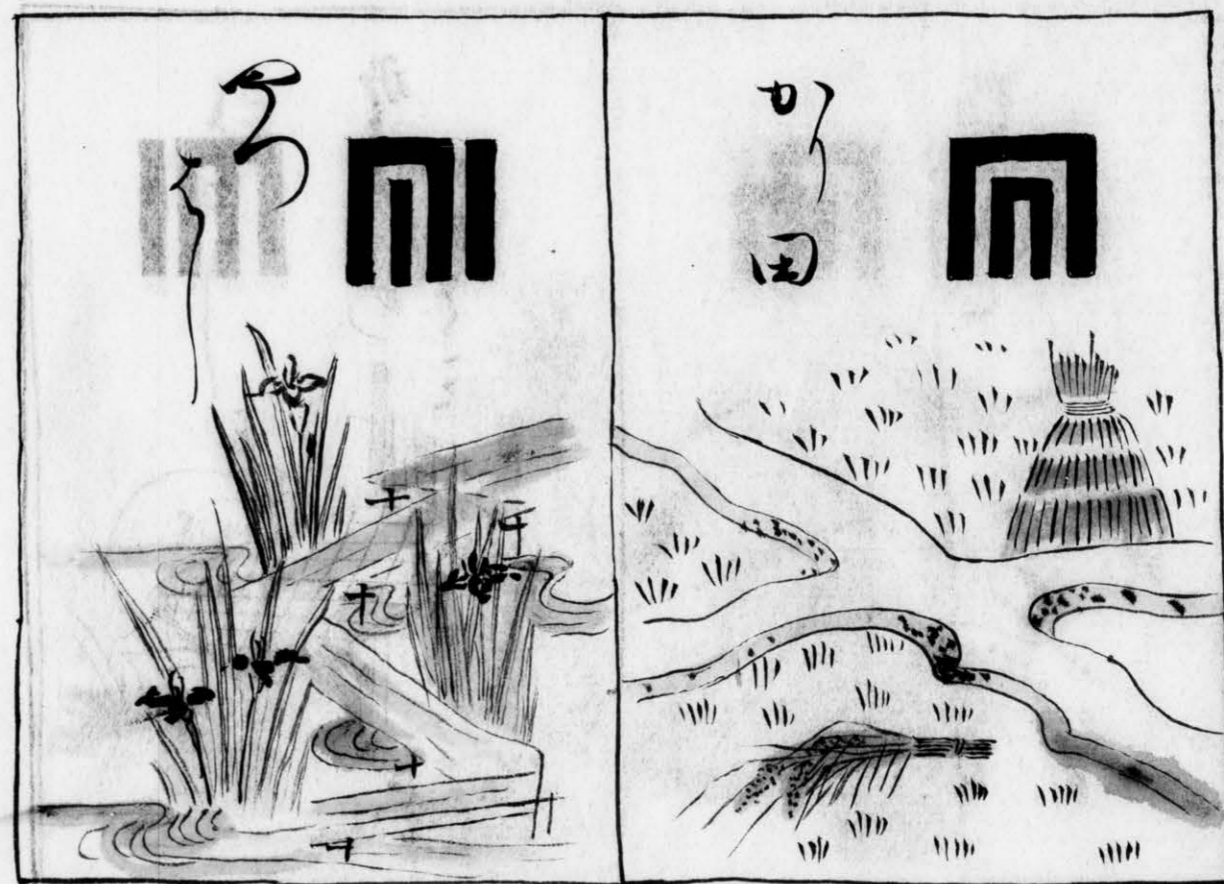
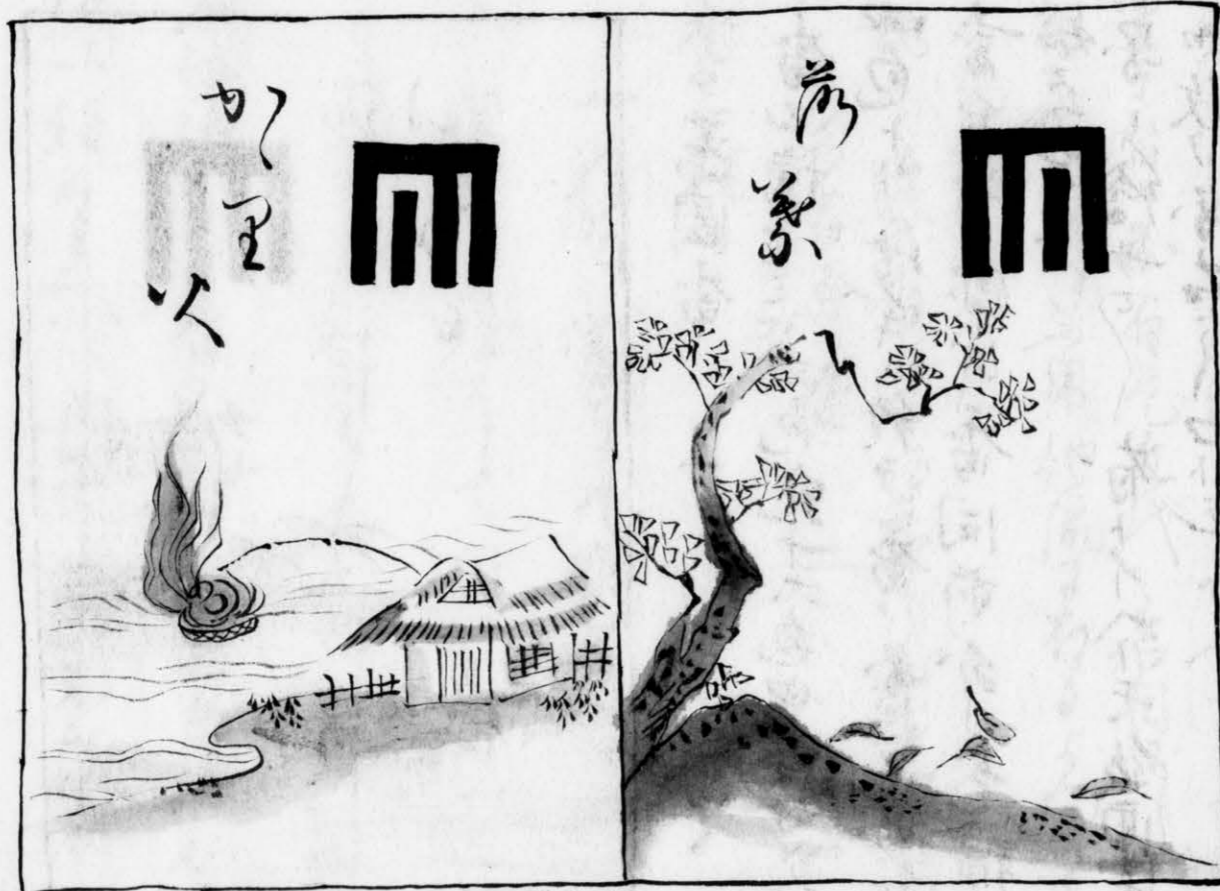
十二 崎鳥香
 十三 鳥合香
 十四 鷺香
 十五 鯨香
 十六 字治香
 十七 四季被香
 十八 節香
 十九 山語香
 廿 五色香
 廿一 雨月香
 廿二 蛙香
 廿三 雪月香

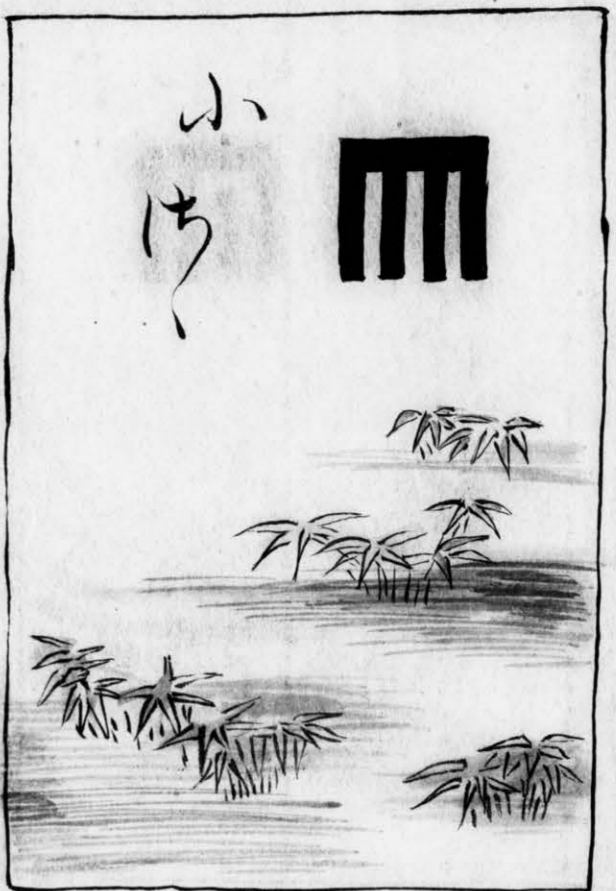
十二 崎鳥香
 十三 鳥合香
 十四 鷺香
 十五 鯨香
 十六 字治香
 十七 四季被香
 十八 節香
 十九 山語香
 廿 五色香
 廿一 雨月香
 廿二 蛙香
 廿三 雪月香











○系圖香 一

一香四種 一三三三 四色宛十六色也右打交
 四色トリツキ、終ヲ香ヲ記ル
 書付ル源氏香同前外是須
 知スヘシ
 一果之繪サツ 有トイヘトモ後四種
 改メ果右ノコトシ

一右ノ内而ハ果むう 巧ニヤニ考テ
 里ト替メ果有是源氏ニ名同リ
 尚亦ハ後ニ用他處ニ有ル
 今仍ト考メ
 一執筆源氏香 今仍ト考メ
 ○古今香 二

香三種

一程を 嘗トイカセ也 内色談

同 蛙トイカセ也 日

同 和音トイカセ也 試

右法終リ本香八色打交ニ色除和
 歌一程多クテ再交テ煙亦以右

二

六柱状より、水之種、月を色とり
 つけ、種を清く、水、和奇の傳は
 せし、く、管と、す、香を、せし
 なく、管と、せ、お、か、つ、い、と、讀、八、奇
 此香の傳は、水と、せ、下、に、水、を、せ
 蛙と、せ、お、せ、い、高、奇、人、に、せ、り
 くる、全、れ、人、は、古、今、と、せ、り
 執筆の人、和奇の、水、を、清、く、せ、り
 後、の、水、香、の、お、を、見、合、せ、り、せ、り
 とも、水、も、せ、り、ふ、高、い、と、せ、り、和、奇

と記

管 蛙 一
 古今香之記 和歌 一
 管 蛙 和奇 管 蛙 管

名 管 蛙 和奇 管 蛙 和奇 管 蛙

名 管 蛙 和奇 管 蛙 和奇 管 蛙

名 管 蛙 和奇 管 蛙 和奇 管 蛙

月日

右古今香之世、知人、可、是

其命在也地今世上又古今香
いふたのこ

雷三種

雷うき色 田一色 淡

蛙うき色 田

歌うき色 二色 淡

右法次く蛙出た銀合波

雷うき色 田一色 淡

蛙うき色 田

雷うき色 田一色 淡

蛙うき色 田

雷うき色 田一色 淡

雷うき色 田一色 淡

雷うき色 田一色 淡

雷うき色 田一色 淡

雷うき色 田一色 淡

田

五元元方 仔細大浦

札表 枝中人丸 凡河内船胆

花系銀形 傍正遍昭

紀貫之 小野小町

在系業年 諸人志

札裏 花水奇 常蛙 一人可取以十人可幸牧

古今唐之紀 歌 一

常蛙 常蛙 常蛙 常蛙

光亨 水 常 四

小町花 分 蛙 六

紫平花水 分 常 蛙 全

。煙競香 之

香六種

一種在足筒と名付六包 日一色試

同 地電と名付同 日

同 明石浦と名付二包 試分 一

同 小野山と名付一包 同

同 干盤井浦と名付一包 同

同 海人と名付二包 同

右の紙に於て、本香十六色試包

宛をいふ合紙の前後より、
四角に在るの香包紙をいふは、
阿多也、試みりい合紙也、
札の姿をいふに、香紙合紙、
如元

初巻電後巻電とすハ、曙、札、打
初巻電後巻電とすハ、夕暮、札、打
居電とすハ、居電、札
巻電とすハ、巻電、札
初巻電後巻電とすハ、火、札

初巻電後巻電とすハ、漢、札
小巻山子巻浦とすハ、漢、札
二種も同様とすハ、富士、札
札の数八枚宛表常の如し

札表 曙 夕暮 居電 居電
漢 漢 漢 漢

巻く八枚宛十人宛八枚二種ひき、
あつち香二種小札一枚之番数十六種
試みり十八色あり、先子香をよみ
後子札を合紙あり、を記

名 山標 晴 筒四

同 五葵、軍火車夕暮 培電屋電漢 十二

同 所萩 火車夕暮 培電屋電 十

同 残菊 望 漢 六

同 老芦 望 漢 八

同 香松 培電 二

月日

記紙にてモ少しトキハ記ヒテキヨ

如字ハ余トキヨ

木寄小札八十枚有る 署物ニ云々
一枚札八十枚ニテ云々

。忍香 四

香七種

一種を風の家札花ノ 二色 同色後

一種を雲井札月ノ 二色 同

一種を雲井ノ子 二色 同

一種を月尔志ノ人 二色 同

一種を木家札時女 二色 同

一種を紅葉小津時女 二色 同

一種を光源氏ノ 一色 試

右儀香遊りし七色市交煙出ん儀
工奈札也折札七牧り札表
茶上ゆゑ上七敷里為茶交勝
月夜右一方札也初宮堂夕言
蒸柏木気亦一方札裏ハ右香立
の若月也出一種元つき高り汁を
記中香也先札を以合儀記
如光

風の香
月言
雲折月
右儀香遊りし七色市交煙出ん儀

香記

風の香 月言 雲折月 右儀香遊りし七色市交煙出ん儀

左儀

名 風言 本此香遊りし七色市交煙出ん儀
上 月言 雲折月 右儀香遊りし七色市交煙出ん儀

香

月言 雲折月 右儀香遊りし七色市交煙出ん儀

右

式

風の香 月言 雲折月 右儀香遊りし七色市交煙出ん儀

夕言

本此香遊りし七色市交煙出ん儀
月言 雲折月 右儀香遊りし七色市交煙出ん儀

外氣子順也

。佳香 五

香五種

一種で君代松久二包 内包 試香

同 久多行七包 同

同 松久行七包 同

同 兼松行七包 同

同 久多行七包 同

右試香四種終久香又包折

すや煙おん厚一試合くおんを

記紙に去付おんあつるふとんを三弁

如常二試君代の

久多行

兼松行

任香一紀

任久の松

久多行 君代の 兼松

兼松行 任久の松

名

兼松行 君代の 任久の松

名

兼松行 君代の 任久の松

名

兼松行 君代の 任久の松

。新月香 六

香三種

一、樂天とて二色四色法

二、阮籍とて日行り

三、月とて二色五法

右法香二種終り、か香十二色角

樂天少し阮籍少しも色除き

十二色法二色は強い合六度煙

出光二種用く二種同く入札

此合札の名目たのこ

樂天とて阮籍の札

阮籍とて樂天の札

樂天阮籍ハ 又の札

阮籍樂天ハ 卯の札

初樂天とて後月ハ二千里の札

月ハ 月の札

此法香ハ三五秋中新月及二千里

里の介故人心といふ待り

なり

樂天
阮籍

新月香之記月

樂天月 樂天阮籍 樂天阮籍
樂天月 阮籍 樂天月 阮籍

白粉 月包外 阮籍八

杜若 樂 介 四

系 二 二

又阮籍で元結と斗り、樂天
阮籍、時代晋代と唐代と數代
の隔き、少くお遠く、之を後

の化意、や御り

上、即化意をも不知、を私

難用、廣学の、人尚可考

二色、結い合、る、常、依、の、一、二、三、

新、前後の字、認、り、り、 容、人、志

い、い、を、略、す、為、り

樂、天、も、元、結、も、色、除、を、結、い

合、右、除、く、色、も、志、の、折、入、金、り

先、下、寧、く、累、せ、は、初、樂、天、の、月

何、れ、か、一、色、入、信、ん

阮籍、も、元、結、を、用、る

記紙も少記紙のよゝハ二種同
世にわたり用ゐる本香を
調製して申す汁認れ得
念案計りよ
皆申すハ金と記

。之友香 七

香四種 一三三三色宛
密 色 日行

右十種の内より一三三三色宛三
色より一三三三色ハ除き色より

残り七色ハ入八行より一三三三
札の折より常此試みの記
記録中香一の香二種出する時ハ
下松と云字長 二二種出する
時ハ竹と云三三種出する時ハ梅
と云強しれ中下より一三三三
色ハ又文字城かしく一三三三に色
数を出金の人ハ之友と云
あはれぬくの面より一三三三
樹の香たのこ

松乃奇

常盤成ま川のみよりと春来れ
いほ一二月のし海海よりり

竹の奇

年毎日生きて竹の世をく
かゝるぬみ誰とかがらむ

梅の奇

ゆき雪に冬かほくいぬ梅の花
は香にくと似るわがうらみ

之友香之記

二二二一ウ二二二松

名 常盤 一二二二ウ二二二 常盤 之友

名 白梅 一二三三ウ二二二 又

名 緑竹 一二三三ウ二二二

常盤なる松の緑も春くれえ
いま一入乃いりほさう常利

月日

星合香 八

香七種

一程を^{内色}幸年より^徳記

一程を^徳織女より^徳日記

外^徳香^徳五包^徳別^徳香^徳徳^徳

右^徳法^徳二^徳種^徳終^徳り^徳幸^徳年^徳織^徳女^徳の^徳二

包^徳又^徳亦^徳此^徳又^徳色^徳を^徳打^徳ま^徳せ^徳七^徳包^徳は^徳し

少^徳煙^徳終^徳り^徳て^徳記^徳紙^徳に^徳付^徳か^徳た

徳^徳尾^徳一^徳三^徳二^徳四^徳又^徳六^徳七^徳と^徳去^徳何^徳書^徳目

幸^徳年^徳何^徳書^徳目^徳織^徳女^徳と^徳端^徳年^徳に^徳付^徳か^徳た

幸^徳年^徳の^徳幸^徳年^徳二^徳書^徳目^徳織^徳女^徳の^徳書^徳目^徳と^徳心

尾^徳一^徳二^徳三^徳四^徳又^徳六^徳七^徳如^徳の^徳付^徳か^徳た

又^徳法^徳の^徳又^徳亦^徳此^徳又^徳香^徳ハ^徳少^徳拾^徳ま^徳せ^徳し

香^徳終^徳り^徳て^徳尾^徳に^徳付^徳か^徳た^徳 記^徳録^徳ハ^徳〇^徳如

如^徳星^徳ヲ^徳幸^徳年^徳に^徳付^徳か^徳た^徳 内^徳に^徳幸^徳年^徳織^徳女^徳の^徳二

字^徳を^徳幸^徳年^徳に^徳付^徳か^徳た^徳 少^徳年^徳下^徳に^徳各^徳同^徳の^徳幸^徳年

織^徳二^徳種^徳ハ^徳尚^徳り^徳ハ^徳星^徳合^徳と^徳幸^徳年^徳始^徳り^徳尚^徳

後^徳才^徳尚^徳り^徳ハ^徳青^徳れ^徳又^徳と^徳去^徳始^徳り^徳尚^徳後^徳不^徳

尚^徳ハ^徳曉^徳の^徳又^徳と^徳去^徳二^徳種^徳ハ^徳不^徳尚^徳ハ^徳大^徳五

と^徳去^徳く^徳幸^徳年^徳代^徳り^徳と^徳去^徳れ^徳尾^徳に^徳付^徳か^徳た

以上字浮説在尚家不用尚記の
西一考如左

一 奉
二 減
三 奉
四 減

皇合香之記
三四奉一減二五

名 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
曉雨

名 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
星春

名 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
大雨

名 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
夜夜

月日

。三夕香 九

香之種

一種を栴立山とく二包 内色
減

一種を鴨立山とく二包 内色
減

一種を浦管とく二包 内色
減

右三種此試香候とくも香三包

打交一包永少記り之、右付候之

洞極八栴立山鴨立は浦の管管の

内可右付候本香ハ右一旨不之

香名

三夕香三夕香記日

此乃昔言身も名も知蓮より
志きし月波の秋れ夕香

名宗字 浦乃管屋

同 鴨立次

同 栴立山

月日

右之弁 如香之種入も少なる本香

所之骨なるも又一二三ヲ 讀人の名

も出ぬ又所上五文字計れも

出付尚所説く 交直 讀人の組

合もまゝく 遠なる句

三夕香

寂蓮法師

栴立山のいりもなるなり

栴立山れ秋の夕香

西の法師

三夕香言身も名も知蓮より

鴨立次の秋の夕香

定家口

みまは花も寝るなり
浦の管屋此秋の夕暮

。二三番 十

香四種

一 代巻 徳内色 試紙

二 色 徳 日 糸

三 色 徳 日 糸

ウ 色 徳 試紙

存、所、流、く、お、香、七、色、打、交、煙
お、此、試、紙、合、札、打、亦、一、の、香、汁、試、紙、
七、色、打、交、て、試、紙、十、煙、香、の、こ、も、
一、計、試、紙、合、札、の、も、有、二、京
よ、一、月、なり

け、香、紙、の、名、紙、う、う、紙、と、い、ふ、と、
一、二、三、の、数、子、合、く、香、紙、打、交、三
三、と、ま、り、う、う、紙、と、い、ふ、紙、三

三六二割の教は、ついで又二三の
 教を合すれば、六の地の教も合も
 又六の教も、こまうて、秘時ある若
 目となきとあり

一二三香記

二二二ウエー

若雲

ウーニニニニニ

三

紅梅

ニニニニニウニ

五

若升

ニニニウニニニ

一

○草木香 十一

香五種

各二色宛十色、混在若小香
 一二三四五、れと合さるゝ試

右宮物、たふれ、五色宛、一方向宛、
 交合、一方向、一色宛、より、又、一
 方向宛、能交合、一方向、陰、一
 方向、宛、さ、は、り、五色の内、
 へ、何、目、り、同香と、さ、草、本、
 若、く、出、付、出、さ、る、れ、と、つ、小、香

香のついで前名の名は草木に替る

のとなり草木名にのこ

内人至 一二三

いせに 高はき 志はれ 四五

わまひ 一二三

いせに 高はき 志はれ 四五

わまひ 一二三

いせに 高はき 志はれ 四五

草木香記 一二三

わく、えん 一二三四

名 何のき

名 志はれ

名 けい

月日

時鳥香 十二

香五種

一 色 内を色紙

二 色 田

二色色 水法

右の如く色口行

月とて色口行

右法流るる一二三打まを色
除く五色か香の如地光記紙は去
付心は扱右の月一色と四色打まを
二色除く少記紙は去付あや初のみ
程乃内二妻の二妻めか清きんき
多故人を下にはさう段と去後乃
二色同香とすん右の如と去別香中

かりハ月と去ほくま後乃文字を
ふはくま 右の月は文字は
ふえまうはを題号は文字を
今一ハ只点の文字計之

時鳥香之記

二一三二三 右の月

名 ニニ三二一三 月ほまきた七

名 ニ一ニ一ニ三 四

記録の如月と起る時ハ香の下

あは出なしい出する時におくに也

歌

ほろふあまのほろふかたはあまのほろふ
きりあまのほろふかたはあまのほろふ

月日

○鳥合香 十三

香四種

一種百子香より二色徳色法

同 稲負香より二色 口口

同 浮子香より二色 口口

同 密より二色 口口

右法香終りて四色折文内より二色

より二色法は合若紙紙に去付はあ

りより二色法は合若紙紙に去付はあ

と稲負香より二色法は合若紙紙に去付はあ

と去付はあは二色法は合若紙紙に去付はあ

もきく半は其時ハ二種よりあ

半は其時ハ二種よりあ

二面よりあ

鳥合香之記
百子香 橘葉香 松竹梅香 山吹香 紫雲香 白梅香 桃紅香 芙蓉香 芍藥香 牡丹香 蘭花香 茉莉香 桂花香 茉莉香 芍藥香 牡丹香 蘭花香 茉莉香 桂花香
 カハチノコ
 山吹香
 白梅香

名 呼子ウ

名 呼子ウ

名 呼子ウ

月日

鶯香 十四

香四種

一 松ノ 四色 内色試

二 竹ノ 四色 田行

三 梅ノ 四色 田行

ウ 菅ノ 一色 云云

右試香三種 松竹梅

色宛之包打交て 煙也 松竹梅

包打交て 煙也 菅

仕舞 江戸之尤作之包 記録

息を以て七種ハそ程早ク香がも
つてくるなり 雪の上竹、人樹
書松、人ハ谷戸と云梅、人古
果と云て下ニ是教可云尚記録
云云

芸
竹
香
名
目

雪
香
記
雪

梅
香
竹
松
竹
雪

白梅 雪竹梅竹 雪樹三

初櫻 梅雪竹梅竹雪竹雪樹全

总松 梅竹雪竹 梅雪菓四

緑竹 梅雪竹梅竹雪竹雪樹全

蓮系 梅雪竹梅竹雪 雪谷戸七

月日

○三軒香 十五

香之種

春夏 四色 内色試香有

秋冬 四色 試香有

冬旅 二色 試香有

右法香終りて残八色折まを焼く
試み合く札歩なる記紙もか
香丹合く忌度札の写すたの
こゝに二柱ひさし

春夏くよすハぬる大成辨

秋冬ハ細くいふ辨

忘旅ハ忌んある辨

春夏秋冬ハ常世のききたり

秋冬春夏ハさしつ

忘旅春夏ハぬまは海と

春夏忘旅ハうまのこゝも

忘旅秋冬ハうまのこゝ

秋冬忘旅ハうまのこゝ

此香二柱用さなり後にも札を
て記紙一度くまむりて札ハ
後ひきまもつたけ時ハ二種宛
りく出付て後まおほく札入
るこゝく出立杯ハ正半の晴
會丹尚りつるつら記
たのこゝ

去友

秋友

三舛香之記 忘旅

去友 忘旅 秋友 忘旅 去友

名 子刻乃如也云云の山お成舛

名 形其た云の山如也云云舛

名 形其た云の山如也云云舛 八

弁先頓知也

三舛の和歌

左 頭友系親定

厚くも常世の光れいっかりや

月がいつくも月 去の歌

藤原良経

秋友や秋友に秋也云云けハ

つらぬ玉たる 友のさし

大僧正慈円

人志也云云云云ハ 心身云云

友のさし云云

左 頭友系親定

たさくし 友の衣 月云云

暁白之の天のくく山

友系家隆

旅夜も申先秋ハ云云云の山

国とハ云云 身人云云

沙弥拜定

雙の取れ有明のそよみ時

月よりある。取事の記と之

鴨長明

淋さは尚残るる記と有る

藤原の上れ今明の初也

たのふ七角れ一勾瓦をより

若目成す星み付く一勾を

見ゆさなり

○字活香 十六

香四種

一種を標と名付て二色と認む可也

同 紅紫とて同 只以

同 明紫とて同 只以

同 白とて二色と認む可也

右試香之種終りて炬出候本香

二色に宛むまの合せし打ませ出候

二種ひきくむまの合せし打ませ

二色一色むまの合せし打ませ

むまの合せし打ませ二色

宛名むし合テ以上四結い八重
 ありあふまひりゆり札の
 厚し尤二種きり札や二枚宛
 うらり厚し但折紙二種少
 一は宛名厚し記りくじり
 たり紙あふり厚し一は宛名書
 きりうらり折紙を先ひき
 記りくじり一は札の厚し
 ありあふり札文字別如左
 札の表文字

楯形 楯本 総角 甲 殿 東 左
 宿本 浮舟 蜻蛉 手習 浮楯
 同札の裏文字
 殿 葉 楯 白 音 意
 右札を折紙うらり

楯くじりハさくら札の厚
 紙あふりハもろちれ札の厚
 意くハ 浮舟の厚
 紙あふりハ 母の札の厚
 先楯後紙あふりすの札の厚

先年蒙取梅ハ、まきの札ヲ、
 如新二種め、小札ヲ牧宛四牧
 赤之是淋江、札或牧ヲ、
 其外記、
 考、
 記、

梅名

子葉

字作香、
 記、

梅、
 子葉、
 白、
 葉、

梅、
 子葉、
 白、
 葉、

梅、
 子葉、
 白、
 葉、

梅、
 子葉、
 白、
 葉、
 梅、
 子葉、
 白、
 葉、
 梅、
 子葉、
 白、
 葉、
 梅、
 子葉、
 白、
 葉、
 梅、
 子葉、
 白、
 葉、

月日

香四種

四季歌合香 十七

一二三

芭宛内、
 芭宛、
 芭宛、
 芭宛、

密書之包 之儀

右試書之種ありてお書十二包
やみ凡繕い合一一とむし合
春の香あり一三とむし合
夏の香あり一三とむし合
秋の香あり一三とむし合
香り一密書とむし合
冬之香あり

右四繕紙むし合なり
作コ、四繕字紙一二三ウ春
夏秋冬ハ四包お交テ中

先始、記紙の内、春夏秋冬お交
字紙書お交テ標題、一々おに

但記紙ニ紙宛出
上ニ紙ハ白紙、下ニ紙ハ黒紙

四季、各紙の形、紙、紙、紙、紙
文字一字宛出付
紙宛ハ記紙、内四季の各一宛宛出

二人一紙と一人二人ハ其反二人

秋冬二人人数多時ハ又其反

秋冬といふやと出なり
右試書秋
夏冬といふ

ぬきやうハ作八種ハ二包宛出

表反秋冬の一文字宛紙記し

去付四季歌うて記四種の内家
 季の香ハ何妻めと云ハ記紙の
 奥一二三四此文字母ハ付
 出ハ尤家香高ハ志アリ高
 和少ハも志有ハ皆少ハ下ハ
 二首少ハ昨ハ種ハ角家季
 の香高ハ四種ハ角少高又一方ハ
 記高ハ昨高時二人の中持と云
 一方高一方少高ハ行りハ音勝
 と云ハ尚記の如クハ能くハ

考又我季歌行りハセリ人ハ
 上なれハ上ハ句歌去存計ハ下ハ
 句記去ハ

四季歌合香之記

- 一三ウ二
- 一三ウ二
- 二ウ三
- 二ウ三

春
 名家 春秋之友 二ウ三
送るも記ハ名家之角ハ
 ヤリてハ名家之角ハ

名家 友秋之妻 二三ウ
送るも記ハ名家之角ハ
 ヤリてハ名家之角ハ

秋 ^{二ウ一}
名系春秋名友 ^{二ウ一}
わき紙本の底ありて

名系 ^{二ウ一}
名系 ^{二ウ一}

春 咲散りし花をたずねて春の内を
せりくわむせそり果てや

夏 知月の光やいしの時風
さよめらうんいふさそり

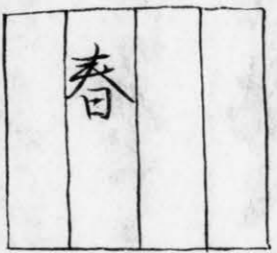
秋 わき紙本の底ありて
老のさつえきを 照るれぬ

冬 秋のまはさくいさか 小篠系
志秋切たる雪の内りか

室神 記紙 春夏秋冬ヨリ付
深より 春夏秋冬ヨリ 秋冬トリム

冬(香) 本執筆ナリトモ 春夏秋冬ハ

サキニカリク



。四節香 十八

香九種

初樹 ^{二ウ一} 五色 口一色紙

橋 ^{二ウ一} 同 同

有ゆりり 同日

早の香りり 同日

右試ゆりり 初五種ハ別の香

一炷一ワ二ク三ム四フ五モ六名目

上一ゆ二上三秋好中末 七散皇

源氏二と一

は又、名付、如左組合

初標、橋、有ゆり、早雲

初標、上橋、散皇、秋好中末、香ゆり

右の通り組合初標、ゆり、ゆり

在初、二炷、一初と四炷ハ試、香

ゆり、ゆり初を一炷初ゆり、源氏を交

て、初、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、源氏

交り、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり

札、初、除、き、准、二、炷、早、雲

尤、初、ゆり、香、ゆり、札、を、ゆり、上

ゆり、試、ゆり、ゆり、初、標、ゆり、四、部

の、香、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、初、標、と

ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり

ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり

誠の是所れハ源氏一燈の誠なり
初の字と申ハ多クハ札打娘
如凡

福橋 福橋

橋 橋

有明 有明

岸雪 岸雪

初橋 岸上 若川

橋 教里 時鳥

有明 仲文 月

雪明心 雪

橋源氏ハ 岸上

有明源氏ハ 仲文

橋源氏ハ 教里

雪源氏ハ 明心

志源氏の紐合、初まひり源氏
を治まぬる錯い合

札ノ表常なり

表心ノ右目を書

の札ハ此ノ用事アリトシテ記シク
ふと多ク

又記シテ其ノ時ハ心残記ナリト
写事ナリト又思フ

都テハ山路香ハ香盤ノ習ヤ外
包紙示別ト信流有異之

山路香之記

多野軍足柄邊坂暗刻伊約在種新田嵐峯
孝益春日

音辰辰辰辰音山路音音山路辰辰

若札音辰辰音山路音音山路

若札辰辰辰辰山路山路辰辰八

若札音辰辰辰辰音山路音音山路辰辰全

月日

山城 晴刻 常盤 音羽 嵐山 小倉

大和 生約 春日 菅生 新田

近江 盛坂

駿河 富士

相模 足物

香魚ニ香色十二色



香色は此に盡る

能登	中津	宇小	公野	下野	野古
半登	晴野	龍田	香野	春山	生約

香色ヨリ知小香
 色ハ大色ノ跡ニ至
 尚季ノ山ヲ始メ
 又ハ方角ノ山ヲ
 並ナリタトハニ
 月若野山ノ時
 ナハ若野山ヲ始メ
 行得ハ准知ニ
 色ヲ面ノ山ヲ方角
 順ニ至國東ノ山ヲ
 末ニスルトハ得ニ

し馬ノテ生約ノ時ニ始メ又ハ

大和山城近江駿河相撲ナリ

大香色是ニクモトノ処ニ至トキハ

表ツトノ至トキ上ノ小色ヲ一ツ宛

分ニテ至ナリ

香魚ヲ一込ス中ニテ也スナリ

試お漸ク試香色ヲニツトモ乱

第ハ仕定メテ香魚ヲ銀臺ノ際

ヨセルナリ

○五色香 二十

香六種

青うり二色 月一色 試香

黄うり同 日

赤うり同 日

白うり同 日

蒸うり同 日

紫うり一色 試香

右青黄赤白黒又色 試香

出香の色は紫のうり香加六色

のり打ちをせす時終りて名紙

に付ぬ記号は赤の字は紫

と字の字は一色 種て紫の文字

入り二色 種て紫の字は種

と字は種 一色 種て紫の字は

と字は種 一色 種て紫の字は

と字は種 一色 種て紫の字は

青黄

五色香 一色 種て紫の字は

白青紫黒赤黄

名 青 紫 黒 黄 白 一

名 白 青 黒 紫 黄 五也

名 黒 黄 紫 白 青

計 紫 少 テ 七 赤 少 少 子 八 七 十 二 紫
赤 十 七 三 少 テ 三

雨月香 九一

香八種

月 一 二 三 十 十 二 色 宛 四 色 試

窓 十 十 色 試

雨 一 二 三 十 十 二 色 宛 四 色 試

物 十 十 色 試

但 窓 此 香 十 十 別 香 人

右 六 種 此 試 済 窓 軒 此 一 色

城 入 八 色 打 交 加 香 此 月 香 此

窓 多 十 十 十 記 誦 大 畧 同 前

あり 点 掛 紙 如 此

月 此 字 獨 窓 城 少 尚 此 八 色 四 十

不 尚 八 星 七 十

雨 此 字 獨 軒 城 少 尚 此 八 色 四 十

不 尚 八 星 七 十

多に客費一程母七色
 折交歩もよし時家と
 星二ツ母七色一色消子七色
 救之後御復や定む是亦花
 月平同記左のこし

雨月香

月之雨二宮月一西月二初雨之
 札名 月之雨二宮月一西月二初雨之
 月之雨二宮月一西月二初雨之
 札名 月之雨二宮月一西月二初雨之
 月之雨二宮月一西月二初雨之
 札名 月之雨二宮月一西月二初雨之

雨方勝

札名 月之雨二宮月一西月二初雨之
 札名 月之雨二宮月一西月二初雨之
 札名 月之雨二宮月一西月二初雨之

月日

名点星志別通子定形
 用くあり能く分知

。蛙香 九二

香五種

池ノ蛙ノ一ノ字(白)色法香
 田ノ蛙ノ一ノ字(白)色法香
 日水ノ一ノ字(白)色法香
 井ノ蛙ノ一ノ字(白)色法香
 在法ニ行ルノ一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香

ヲ入七色ナリ是レ中ノ一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香
 一ノ字(白)色法香

蛙香記

水田水田 泥田池井子

札名 田 泥水 池 四

札名 水 水田 泥 井子 三

札名 水 泥田 水 田 泥田池井子 全

札名 田 水 泥田 水 泥田池井子 五

札名 水 泥田 水 田 泥田池井子 六

札名 田 水 泥田 水

月日

。雪月花香丸三

香四種

一二三 三色宛試る

密二色 内を試す 試十種香丸

右極色丸香試一を雪う二を月う三を花う丸を試す

一の香と一回は雪を打二の香と一回は月を打三の香と一回は花を打

香試を吹き多し密し吹き多し丸の丸は丸 雪月花の内

はるあハそほよつるあれそれを折
為し長ハ雪成月く又ハ雪を雪
くそと何事も長なるは雪のふ
日影く照く九字のまは若目と
たのこ

雪を雪くハ雪

月を月くハ月

花を花くハ花

雪を月くハ白妙

月を雪くハ剣系

雪を花くハ木盛

花を雪くハ三苦野

月を花くハ室中

花を月くハ秋

花を月くハ眠

おれ雪の沼水ハ

雪の客と雪の客ハ梅人と云月のおれ
札のふ一夜の女と客の客の人ハ
下野と云くおれの記録を能く
考札のお様客のこり一着目ハ

五紙中央より一色試る
右紙終りて右番八色紙并交て
内より四色よりこれ中央紙
交て六種より種有り試み合
右系紙を去付出に記しは字
て後宮御除至者四色の内より
二色よりてまゝおさなる紙を
去付紙に記しは字おさるは
点やから係紙より二色
紙より春秋勝原をわらう

記録の奥に寄紙が春秋勝原

時ハ

秋の月待りのうかほ栞は彦

春の山望

秋勝原の時ハ

尤もみだり紙系紙もなるを此紙も

切く多く秋に増えり

春秋持の時ハ

たる秋ふかひいれまそわきひ川
時つまはるるんを

たゞ高嶺書し春秋勝負は
斗春の水友の雲霞を
秋月冬嶺を秋の方より一
體の可なり春の方は何程秋の方
何程か多しと云ふを勝也
是れ中央をまわりの物のふ
しと勝負ふ入記たのじ

水
四季香くら記
月
嶺
中央
月中央水月水嶺雲

- 名 月中央水月雲嶺雲 六
- 名 嶺水月中央雲嶺 二
- 名 月雲水中央嶺雲 五
- 名 水中央水月雲嶺
- 名 嶺水中央水雲雲 三

春勝

秋は月信よのうか
さみく小笠原ほの山里

月日

この留れ端を春交勝秋冬勝

又東方四季持と云々在キ記録
も此説紙用紙の面を能く

順知

息妻水秋月二丘ウ四丘

モ各系紙を白紙用紙也

其時合

○雲月香 九立

香之種

月と云々 妙色 内を色試り

曉乃云々 妙色 試香有

夕の云々 同 日行

右試香終りてお香五種打を

煙おにその香ハ二種有れも始

おする方と曉の雲より後のおは

此方の雲より後紙札の合

のうらば月ハ何妻の云々

不長ハ試終りて五種を記す

書付おは

記りくあつたのやう帯れりし紙
 少の下名目なること
 初のれ香月なしか 侍者と共し
 暁の雲れ 月かきるとは 十六夜月と
 夕(の雲の) 次月ハ十六夜と云り
 け名目の初と初客ハ二月と云
 侍者志申れ之客と云月と云
 四香のれ客ハ十六夜と云 又香
 残月と云げを後の夜(月)いつま
 成るとは 世にたり 用也 記りくハ
 後ハ ありと云りたりと云り
 如也

雲月香記

夕雲 暁雲 月夕雲 暁雲 雲月
 名客 暁雲 夕雲 月 暁雲 夕雲 雲月 全
 名客 暁雲 暁雲 月 夕雲 夕雲 初月 一
 名客 暁雲 夕雲 夕雲 月 暁雲 十六夜
 名客 暁雲 夕雲 夕雲 暁雲 月 残月 二

月日

。三景香 九六

香四種

一 種を松海とて二色認内色談

同 二種五とて同 日

同 六種とて同 日

同 七種とて同 日

右試香決りて四色打交煙を紙に
決りて記紙より存おるなりゆり下
名目各々のこゝ

四種のありハ三景と云

一 煙のありハ釣香

二 煙のありハ夕香

三 煙のありハ映香

一 煙と云ハ香雲と云

三系香松海記五指立

松海五指立嚴

名 松海五指立教海 三系

名 松海五指立松海 夕香

名 松海五指立松海 夕香

月日

○ 霞覺香 廿七

香四種

一 煙と云ハ二色認内色談

二 煙と云ハ同 日

三 煙と云ハ同 日

容を枕しりて色 試香の
 右試香終りて磁床虫三種六色
 斗まて二色夜枕一包加へ四色りて
 試合記紙と付おし記す
 左の各目を記す

四種のつハ 寢覚
 二種のつハ 曉の種あり
 三種のつハ 旅の種あり
 一種のつハ 宵の種あり
 名高り江 夢
 寢覚香の記
 磁磁虫枕

名 枕 磁 虫 虫 曉の種あり
 名 虫 磁 枕 磁 宵の種あり
 名 磁 磁 虫 枕 寢覚

月日
 卯是日吹起す

○時雨香 廿八

香五種
 一二三四五 各武色家十包 紙
 作小名香のころ 一二三四五
 合居て一方家と申文て焼物に
 して紙に纏りたる 一二三四五と書
 至作巻の如く 一二三四五と
 後の

左から右に
かきえ白ふまは曙
露露と雪ハ

あまの秋のしづの白露ハ
誰袖より、せき神を

霞露と雪ハ

いまうたひかたつてははるかに

丁急のこころハ家屋にかけ

露露と雪ハ

清く秋乃のしづの露ハ

初くる雲弓に積る雪ハ

露ハ

春林雪ハ記

霞露

名 いまうたひかたつてははるかに

名 清く秋乃のしづの露ハ

名 初くる雲弓に積る雪ハ

名 立かたつてははるかに

名 うたひかたつてははるかに

月日

卯准一知一

○千鳥香

十

香四程

一ノ香三色ニ認内を色請

二ノ香 因前 同

ウノ香を色 法香がー

客ノ番 同 同位し客別香

右試香ニ種終るしお香四色

少くは四色角ウ客の香有

五つをうう二ノ香ハ法合札

ホあり右四色少終る残二種

有を煙合ふうう又この内ウ

客の香有るしお香うううね

うらう初の少と申の打飛

入後の少ハ表れ打飛入るなり

脚子の時ハ表れ打飛跡名を

んは

後の二種を煙合はる申常此合に

用い申あり煙合は道此秘

申をれ香煙二つあり与度

少一打飛ハ二種終るして二つ

一所は表れ少人始の香ハ

申の打飛入後の香ハ長

打飛入る

右と長と尺半の數一三五七九
なり長二四六八十と長の杉
形とあり

お志の屋の障二ウ客二種ありと
はりのたれは少の中上向と出後
二ウ客二種ありは少しては是の
下向と出なり

神後より客ありと少神あり
後ふ尚ハ志那の山と出
同字ハ初ふ尚後尚是ハ八子代と
えありと出

同字ハ初後もつるまハ客一首
出あり 障の志數ハ客中と出
おめた神後二ウ客出テモ全ハ
客一首出ん

志那の山と客の障とすも子鳥
君の湯代をハ八子代とあり

子鳥香く記

- 一ウニウ一
- 札 一ガニ一ウ 志那の山
- 札 二ウニ客 一 志那の山の障とすも子鳥
- 札 一ウニ 一 君の湯代をハ八子代とあり 全
- ウニ

月日

まむ子鳥よ 在合集有り
む全一人の密、前後ヨラス
一有之

子鳥香、煙舎到テ真信、
れ十半時ハ記紙ニ用者本ノ尺
方折ス八半ノ敷思、右方ニ
送揚子ハ元カユ



系鳥香之鳥ノ身、私考伊勢
内

上野野
神鳥野ノ
神鳥野ノ
物比と云

III
むう、
けん、
かして

IIII
み、
あ、
か、

か、
か、

右志以流三十組

國書先師輯集

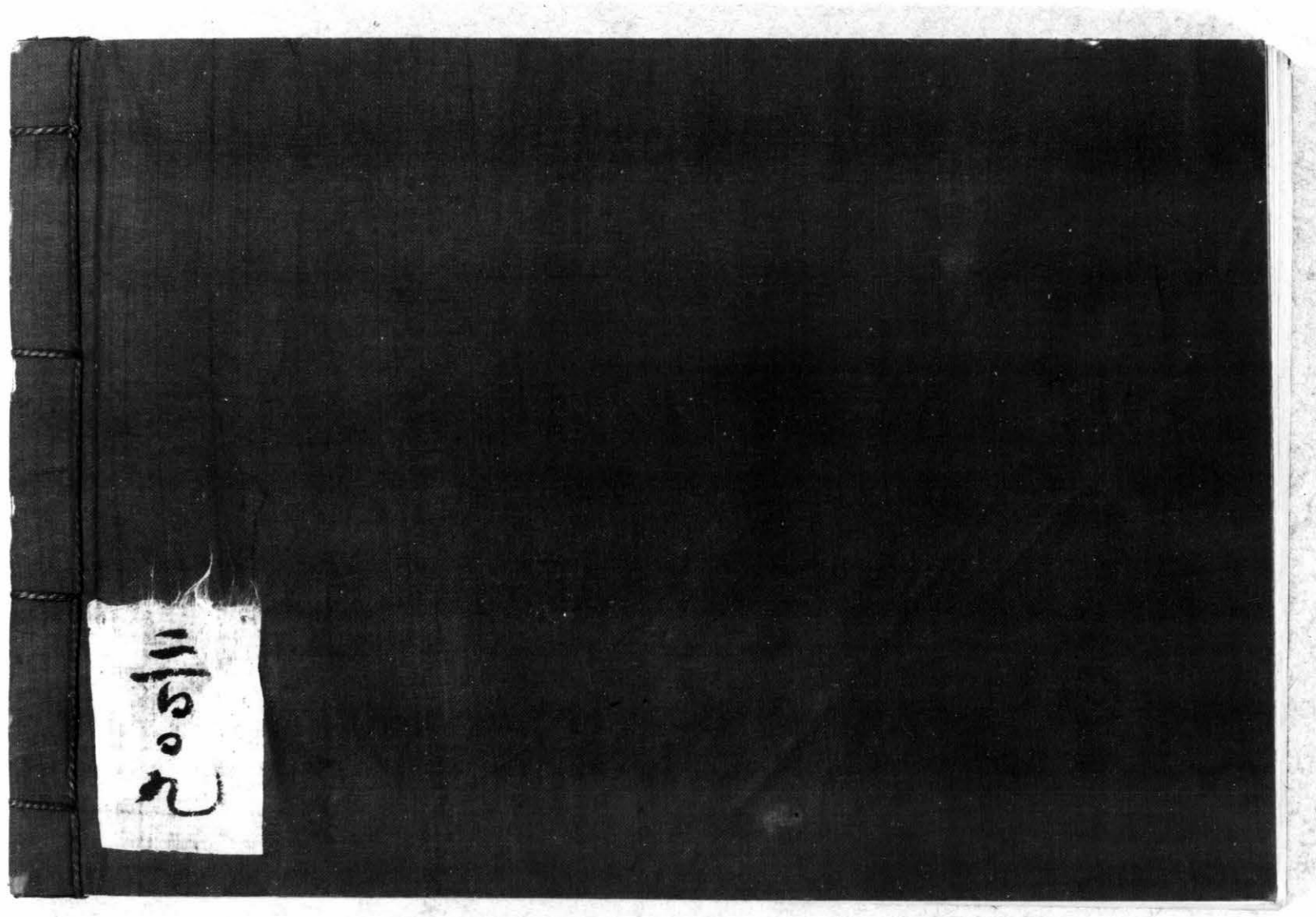
如如傳無一毫

差書寫不呈上也

不滯因

葉

Faint vertical text and markings on the left side of the page, including a small square mark at the top.



ع ١١٥٠